



柳 沢 英 希 議員

平成26年度予算編成について

問 環境美化意識を将来に引き継ぐため、児童・生徒への環境教育は必要では。

答 美化意識を将来に引き継ぐために、子供たちの環境学習を充実させることが近道であり、26年度は分別体験を各校で実施を予定。子供たちから家庭や大人への啓発に期待している。

問 不法投棄等に対する地域や各種団体との連携は。

答 子供達の作成したポスターの活用といった子供から大人への啓発や、市民が情報不足にならないようリサイクルカレンダーの全戸配布、分別機会の増大、ごみステーション周辺の方や、犬の飼い主等への環境美化推進委員への登録依頼などといった連携を計画し、不法投棄等への抑制に繋げていきたい。

問 衣浦大橋東交差点の高架事業と社会変化に対応した全市の交通インフラの見直し。災害を

想定したライフライン整備について。

答 高架事業については、早期完成に向け、予算確保の要望を関係各所へ行っていく。架設工事は26年より始まり、29年完成の見通しである。刈谷市まできている4車線化については、29年度を完成目標とし、神明町交差点までを事業区間としています。市内インフラについては、情勢を見つつ高齢者や交通弱者の移動手段「いきいき号」の利便性の向上と安全な道路環境整備を進めます。市道港線では、視認性を高める道路改良を進め整備後も交通や土地利用変化に注視していく。今年進めている路面状態や照明灯の調査を踏まえ、26年度は維持・修繕計画を策定、国の補助を55%頂き改修工事を予定しております。

水道施設の耐震化は20年度で終了しており、排水管については、災害時に避難所となる（安立荘、南中、高浜分院、翼小）は25年度で布設替えを行い、国や県と再度事業計画を策定し、27年度から5年で、地域防災計画の避難所に指定されている施設（高中、高小、港小、取小、吉小）の耐震管への布設替えの計画を予定しており「強靱な水道」を目指します。



柴 田 耕 一 議員

平成26年度予算編成について

問 東日本大震災や風水害の教訓を生かし、総合的な災害対策の更なる強化の取り組みについて。

答 災害対策において最も重要なことは、災害が発生したときに身の安全を守る（自助）ため、正確な情報を知ることである。昨年、防災行政無線を整備、今年4月に防災メールの運用を開始、現在、防災ラジオの有償配布を行なうなど、迅速な災害情報提供のため、情報伝達方法の多重化に努めています。

問 防災資機材の配備と地域防災組織強化の取り組みについて。

答 地域への防災資材配備については、町内会やまちづくり協議会からの要望に基づき、消火器、小型無線機、レスキューセット、リヤカー等計画的に配備します。又、地域防災組織の強化（共助）については、地域の特性に応じ、各団体・組織等と

連携・協力できるネットワーク構築を、NPO法人レスキューストックヤードの協力を得ながら進めてまいります。

問 「みんなが犯罪のないまちにしよう条例」の更なる周知や地域と共に防犯対策を進める取り組みについて。

答 平成23年、「高浜市犯罪のないまちにしよう条例」が施行され、一人ひとりが犯罪の防止を人任せにする事無く、自分自身の問題として捉え、地域と共に防犯活動に努める事となっている事から、地域の防犯活動・防犯教育等に対し、関係機関と連携し引き続き支援を行うと共に防犯意識の高揚・対策については、来年度、市内全域で「赤パト大作戦」計画を展開してまいります。

問 交通安全対策（歩行者・横断歩道の確保・道路標識の整備・通学路の危険箇所の回避等）の取り組みについて。

答 交通安全対策については、各種団体や関連組織の協力を得ながら連携し、粘り強く取り組んでまいります。又、通学路の危険箇所の回避等については、碧南警察署などの関係機関と共に合同点検等を実施し、危険・要注意箇所の改善に努めてまいります。